



## ■ 我が身になって訓練を ～防災講座

12月7日、キッチンハウスあしたば・GH 高橋荘・GH スカイコーポ合同で帯広市役所の方を講師に招き防災講座を開催しました。

自然災害時の行動や備え、災害情報の入手の仕方、携帯電話を利用した家族等との安否確認の方法等のお話を聞くことができました。

中でも皆さん関心を持ったのは、過去に起きた大災害時の映像です。街や建物が揺れる中で慌て怯える人々の映像を視聴していると、話だけでは伝わらない恐怖や悲しみを感しました。

普段の避難・防災訓練だと実感や危機感を持って取り組むには難しく、ついつい「やらなきゃいけない事だから」となってしまうがちですが、改

めて我が身になって取り組むことの大事さを再認識することができました。

他の参加者も「すぐに防災グッズを買いに行ってくる」「防災ガイドを手に入れたい」など、一人ひとりが少なからず関心を持ち、今後の行動を起こすきっかけとなりました。



## 職員コラム

実録・我流ソーシャルワーク

Staff Column

### 札付き娘と花嫁衣裳 ～やって無駄なことはないのかもしれない

深夜、けたたましく電話が鳴った。呂律も回っていない。又かッ。心当たりを数カ所回ると案の定以前住んでいたアパートの近くの公衆電話ボックスの中で、彼女は泥まみれでうずくまっている。酒臭い。いつものパターンだ、馬ッ鹿メッ。役所からの依頼で訪問を始めた 20 才を少し過ぎた A 子の部屋は、敷っぱなしで湿ったような煎餅布団、酒缶、薬袋、タバコ、若干の衣服が散乱しすえた異臭が鼻を衝く様は、彼女の言いようのない心象を語っているように見えた。「孤児同然。ガキの頃から札付きで」とは役所（当時）の弁。A 子はグループホームと入院生活を行き来するが、夜な夜な室内からの男女の嬌声も絶えず、結局飛び出すようにして姿を消した。

私のワーカーの役割も判然とせず、無力感や徒労感、振り回され感もあり、正直やれやれであった。

そうして忘れかけていた 1~2 年後、夫（らしき男性）を従え胸にしっかりと乳児を抱いた彼女が突然訪ねて来た。「お世話になりました。おかげで、今幸せですッ 報告に来ました。」と満面の笑みをたたえながら。えッ、お・か・げ・さ・まッて？…とっさに「その子は丈夫に育っているのか？あれからどうしてた？旦那はいい奴か？それで花嫁衣裳で写真は撮ったのか？…ああ、もういい…」と一人ごちる。

彼女にはきつとここまでの時間が必要だったのかもしれない等と思う。夫々の「待つ時間」あるいは「待つ事を余儀なくされた時間」というものがあるのだろう。

それにしても面はゆい一日ではあった。

本年も当法人にご厚意頂きありがとうございました。

サポートネット本部は年末年始 12/30~1/5 までお休み致します。

来年もよろしくお願いいたします。

